



株式会社クレオ

2019年3月期
決算説明会

2019年5月17日
(JASDAQ:9698)

目 次

Index

I. 決算概要	P. 3 ~ P.13
II. 2020年3月期 業績予想と経営方針	P. 14 ~ P.26
III. 配当について	P. 27 ~ P.31
補足資料	P. 32 ~ P.40

決算概要

Financial Results

2019年3月期 連結業績概要

(単位：百万円、%)

	2018年3月期 実績	2019年3月期 計画値	2019年3月期 実績	前期比		対計画比	
				増減	%	増減	%
売上高	12,268	13,500	13,526	1,258	10.3	26	0.2
営業利益	410	640	670	260	63.3	30	4.8
経常利益	457	680	706	248	54.3	26	3.9
純利益	305	500	664	358	117.4	164	32.9

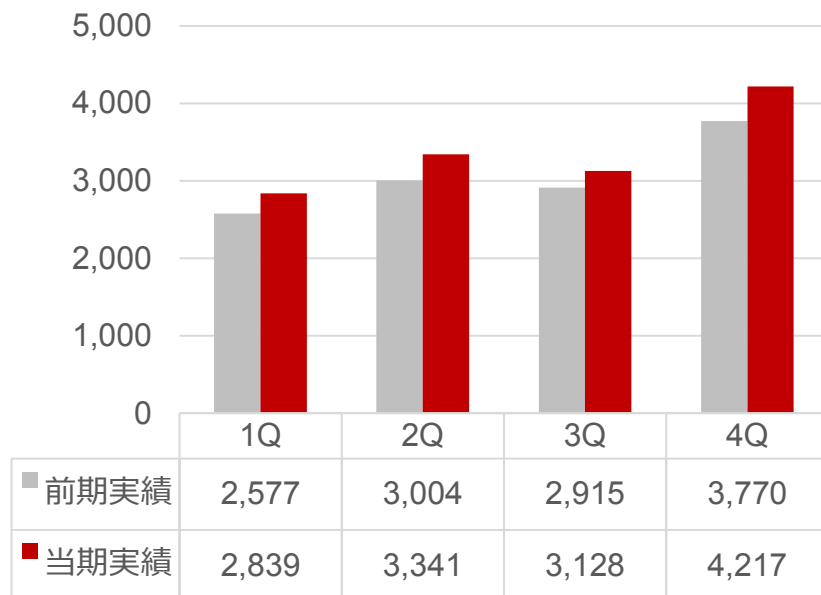
■ 連結業績概要について

- 売上高：すべての事業の伸長により、前期比で12億58百万円増加
- 営業利益：特にソリューションサービス事業の大幅増益等により、前期比で2億60百万円増加
- 経常利益：営業利益の増加により、前期比で2億48百万円増加
- 純利益：営業利益の増加および法人税等調整額の計上による税負担の軽減に伴い、前期比で3億58百万円増加

四半期別の売上高・営業利益

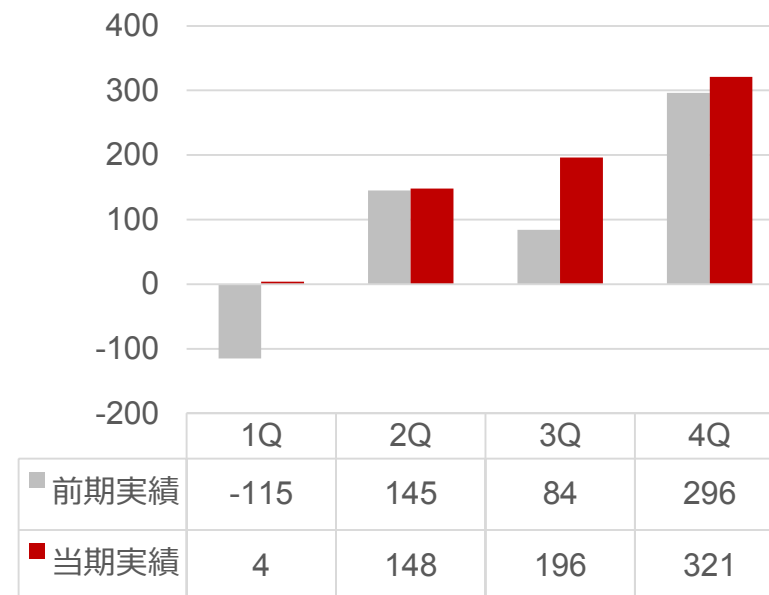
四半期別売上高

(単位：百万円)



四半期別営業利益

(単位：百万円)



■ 第4四半期に営業利益計上が偏重する例年の傾向に変化あり

- 第4四半期に営業利益計上が偏重するため、例年第1四半期は営業損失が発生する傾向があるものの、当期は第1四半期から大型案件による売上・利益計上があったことなどにより、第1四半期より営業利益が前期比で改善
- 第3四半期の営業利益は一部第4四半期営業利益を「先取り」

3力年度の業績推移 通期

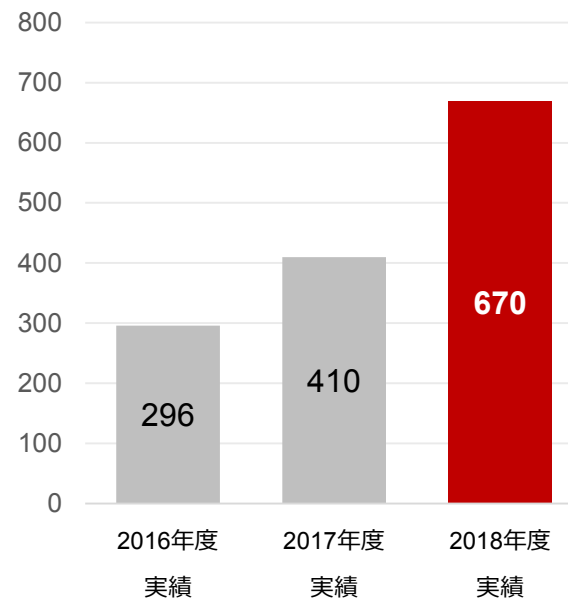
単位：百万円

売上高



2018年度は 5 事業中 4 事業が
前期比 10～20% の成長。

営業利益



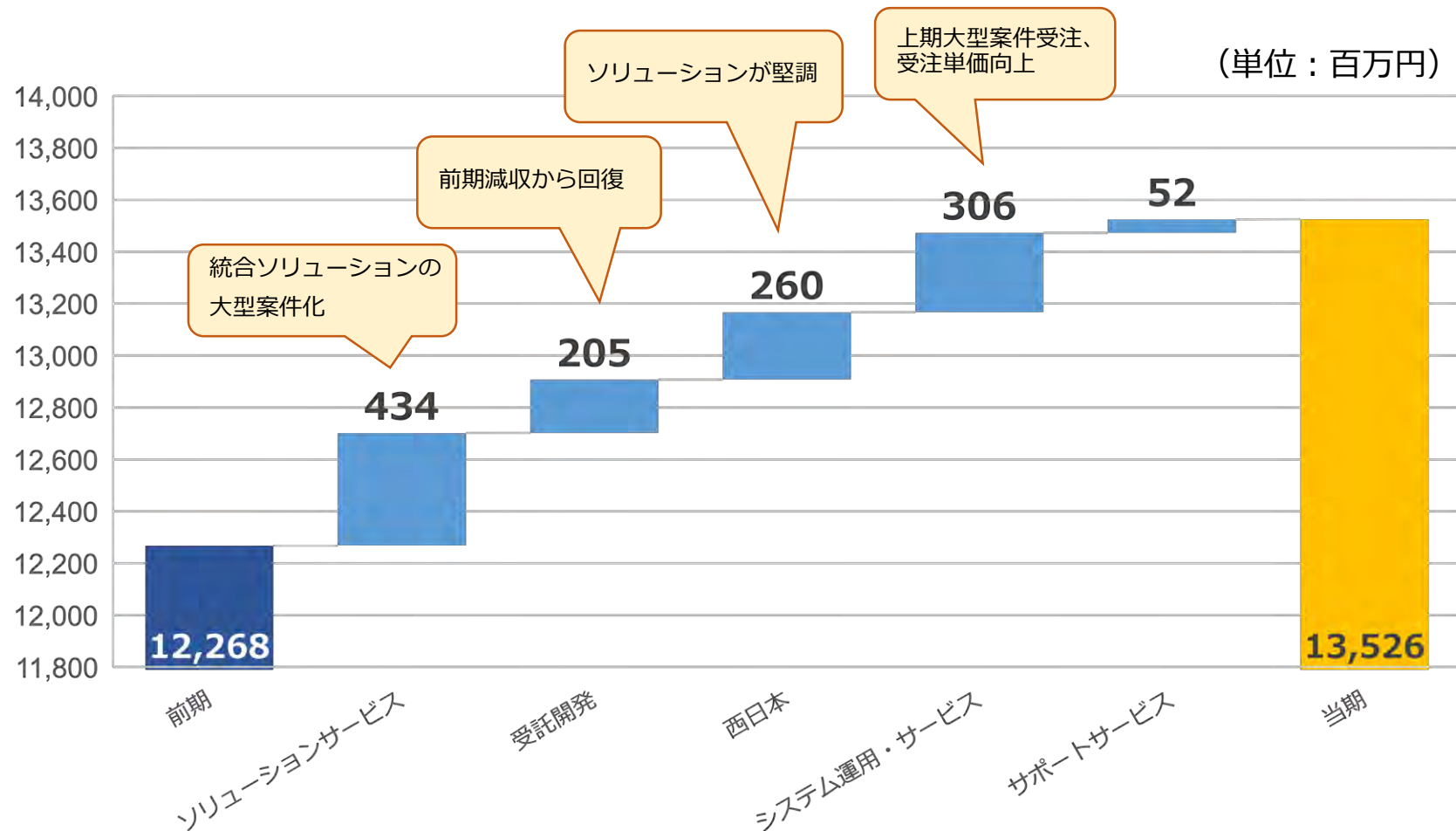
2018年度の伸長は P.3 に記載の
収益構造変化による。

純利益



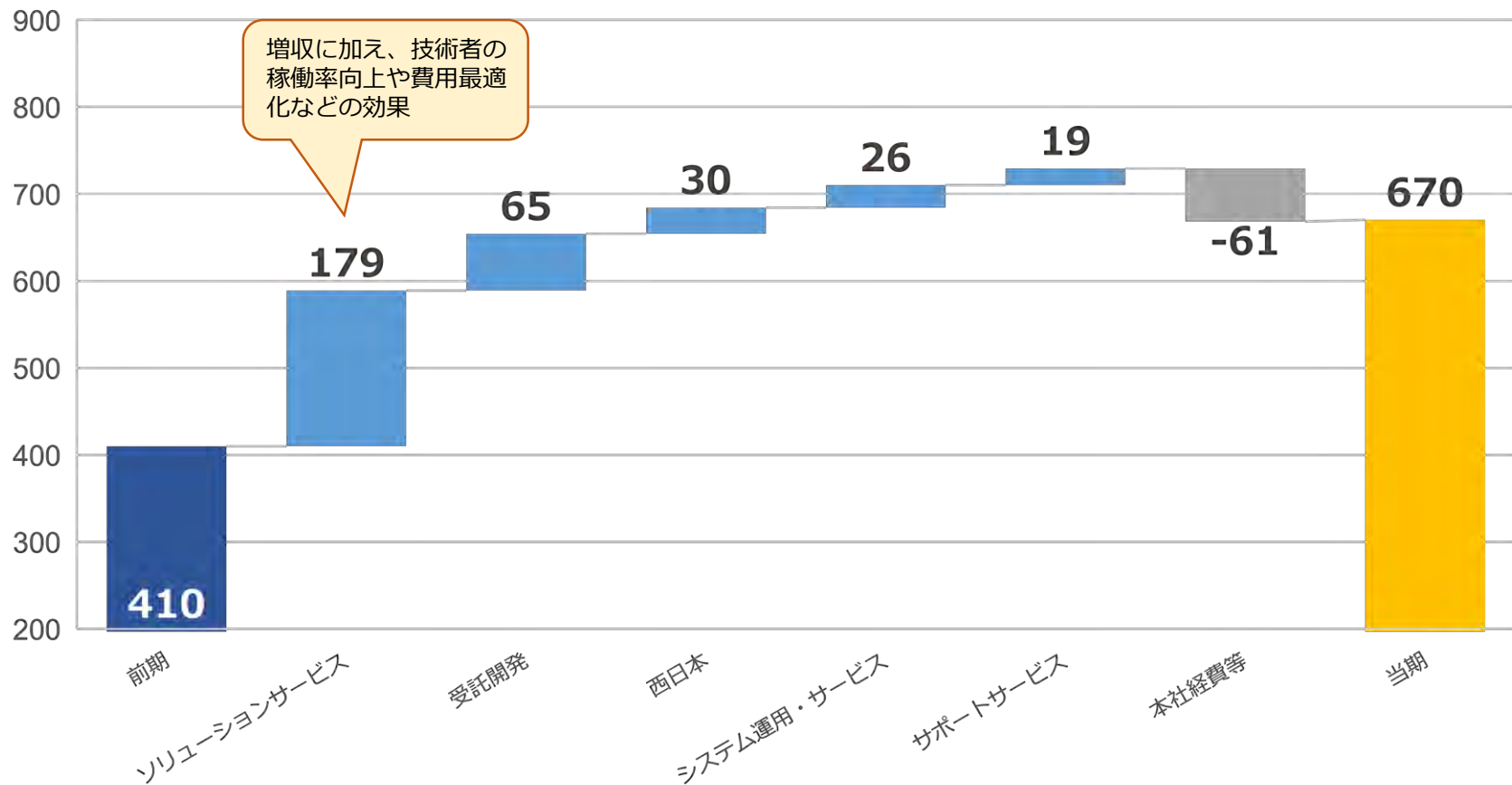
2018年度の伸長は営業利益の増
加および法人税等調整額の計上によ
る税負担の軽減。

連結売上高 前期比 増減内訳



連結営業利益 前期比 増減内訳

(単位：百万円)



2019年3月期 セグメント別売上高の概要

(単位：百万円、%)

	2018年3月期 実績	2019年3月期 計画値	2019年3月期 実績	前期比		対計画比		売上 構成比
				増減	%	増減	%	%
ソリューションサービス事業	3,018	3,500	3,452	434	14.4	▲47	▲1.4	25.5
受託開発事業	1,404	1,580	1,609	205	14.6	29	1.9	11.9
西日本事業	1,378	1,600	1,638	260	18.9	38	2.4	12.1
システム運用・サービス事業	2,049	2,400	2,355	306	14.9	▲44	▲1.9	17.4
サポートサービス事業	4,417	4,600	4,470	52	1.2	▲129	▲2.8	33.1
連結合計	12,268	13,500	13,526	1,258	10.3	26	0.2	100.0

■ サポートサービス事業

調査サービスの既存顧客からの受注が減少し、前期比で微増。

■ その他 4 事業

事業モデルの転換や旺盛な需要の取り込みにより、前期比 10～20% の成長。

2019年3月期 セグメント別営業利益の概要

(単位：百万円、%)

	2018年3月期 実績	2019年3月期 計画値	2019年3月期 実績	営業利益率 (%) ※	前期比		対計画比	
					増減	%	増減	%
ソリューションサービス事業	414	555	593	17.2	179	43.3	38	7.0
受託開発事業	267	320	332	20.7	65	24.3	12	3.9
西日本事業	138	170	170	10.4	30	21.8	0	0.0
システム運用・サービス事業	133	170	160	6.8	26	19.8	▲9	▲5.6
サポートサービス事業	198	210	217	4.9	19	9.9	7	3.7
本社経費等	▲743	▲790	▲804	-	▲61	-	▲19	-
連結合計	410	640	670	5.0	260	63.3	30	4.8

※ 連結子会社が運営する「システム運用・サービス事業」「サポートサービス事業」以外の3事業については、営業利益の算出にあたり、本社経費等の配賦を行っておりません。

■ ソリューションサービス事業の増益が連結業績を牽引

ソリューションサービス事業の営業利益率は前期 13.7% から 3.6 ポイント上昇

複数事業が前期実績を上回った中でも、特にソリューションサービス事業の増益が連結増益に寄与

貸借対照表の状況

(単位：百万円)

資産の部	2019年3月末	2018年3月末 増減額
資産合計	8,433	+907
流動資産	7,192	+746
現金及び預金	4,012	+528
営業債権	2,761	+246
固定資産	1,240	+160
のれん	0	▲93
ソフトウェア	275	▲92
投資有価証券	41	+37
繰延税金資産	296	+284

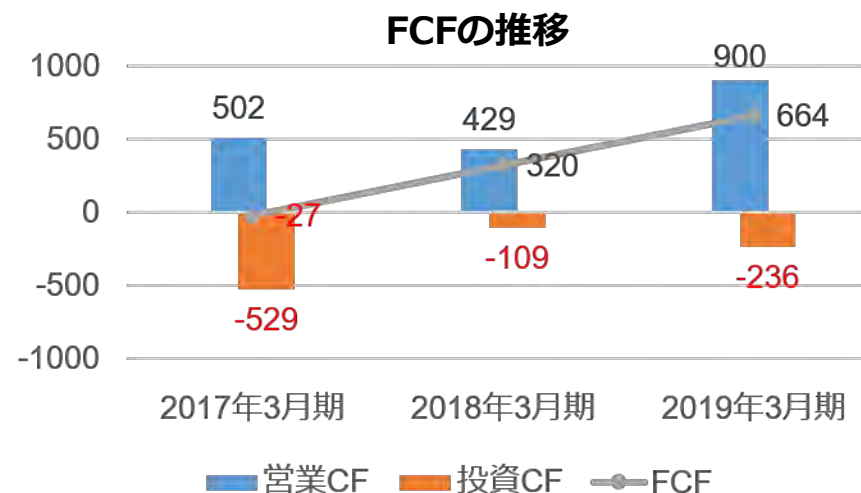
負債及び純資産の部	2019年3月末	2018年3月末 増減額
負債・純資産合計	8,433	+907
負債	2,571	+361
買掛金	671	+152
未払法人税等	178	+59
純資産	5,861	+546
非支配株主持分	40	+6
親会社株主に帰属する持分	5,821	+539

自己資本比率	69.0%	▲1.2pt
--------	-------	--------

キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	429	900	+470
税引前利益	436	581	+144
減価償却費及び償却費等	305	386	+81
その他営業活動	▲312	▲68	+244
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲109	▲236	▲127
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲165	▲135	+29
現金及び現金同等物の増減額	155	528	+373
現金及び現金同等物の期末残高	3,483	4,012	+528
フリーキャッシュ・フロー	320	664	+343



2019年3月期 配当金

	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期
年間配当金	13円	15円	20円→25円
配当金総額	109百万円	124百万円	207百万円
配当性向(連結)	41.8%	40.8%	31.2%
当期純利益(連結)	267百万円	305百万円	664百万円

中間配当 0 円。通期業績予想は2019年2月に上方修正。
同時に配当金予想も 20円→25円に増配。

- 連結配当性向 40% 目標は維持。
但し、2019年3月期は繰延税金資産計上の影響により除く。

2020年3月期 業績予想と経営方針

Business Strategies

中期経営計画 2017~2019年度 基本方針サマリー

実感できる成長力

売上高
150億円

営業利益
10億円

過去最高益
8.8億円越え

グループ総合力

クロスセル
強化

部門連係
強化

新規事業
創出

安定した株主還元

自己資本比率70%超過額
を原資とした自己株取得

配当性向
40%維持

コーポレート・ ガバナンス強化

株主対話
強化

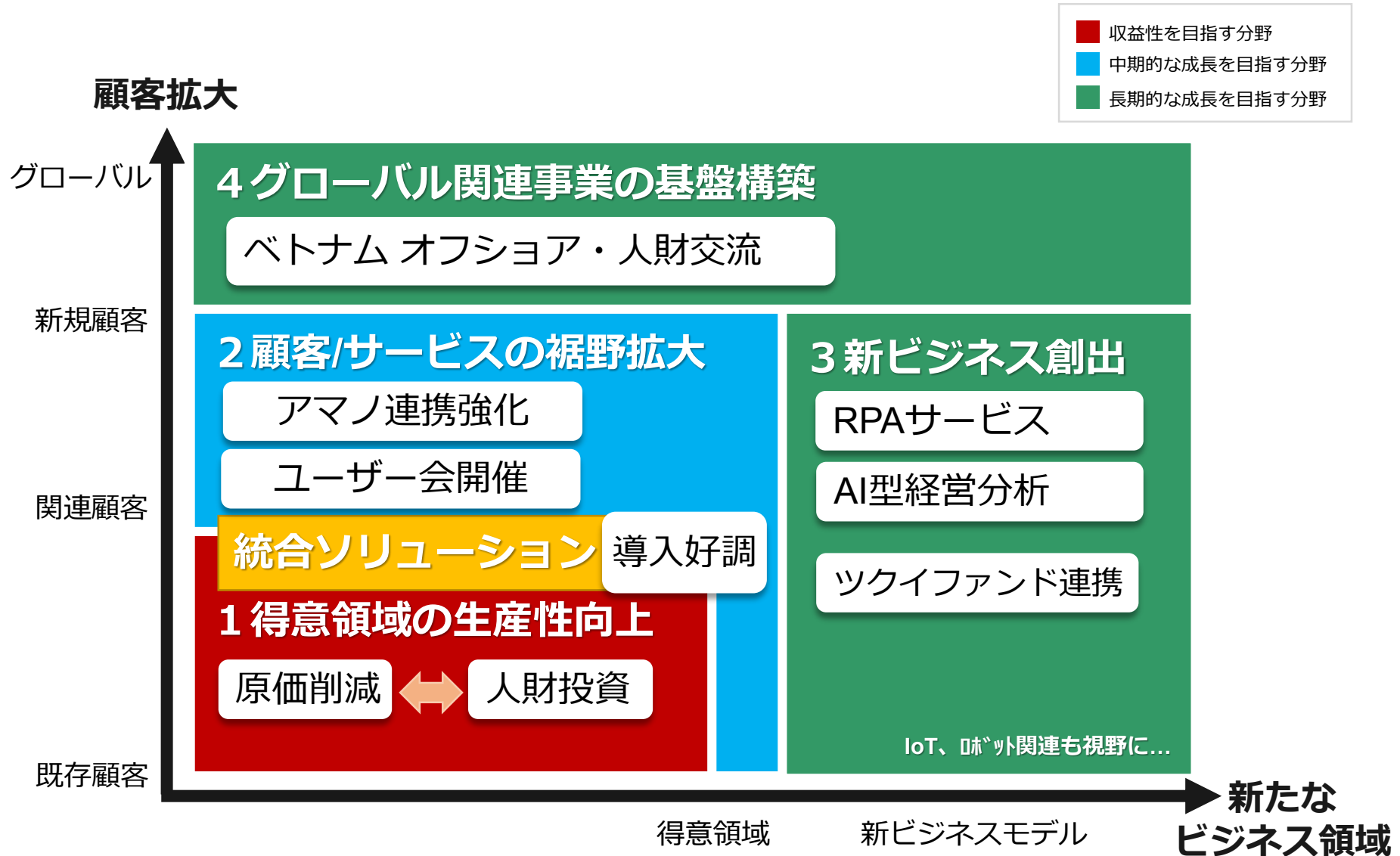
役員報酬
制度改定

独立役員
選任

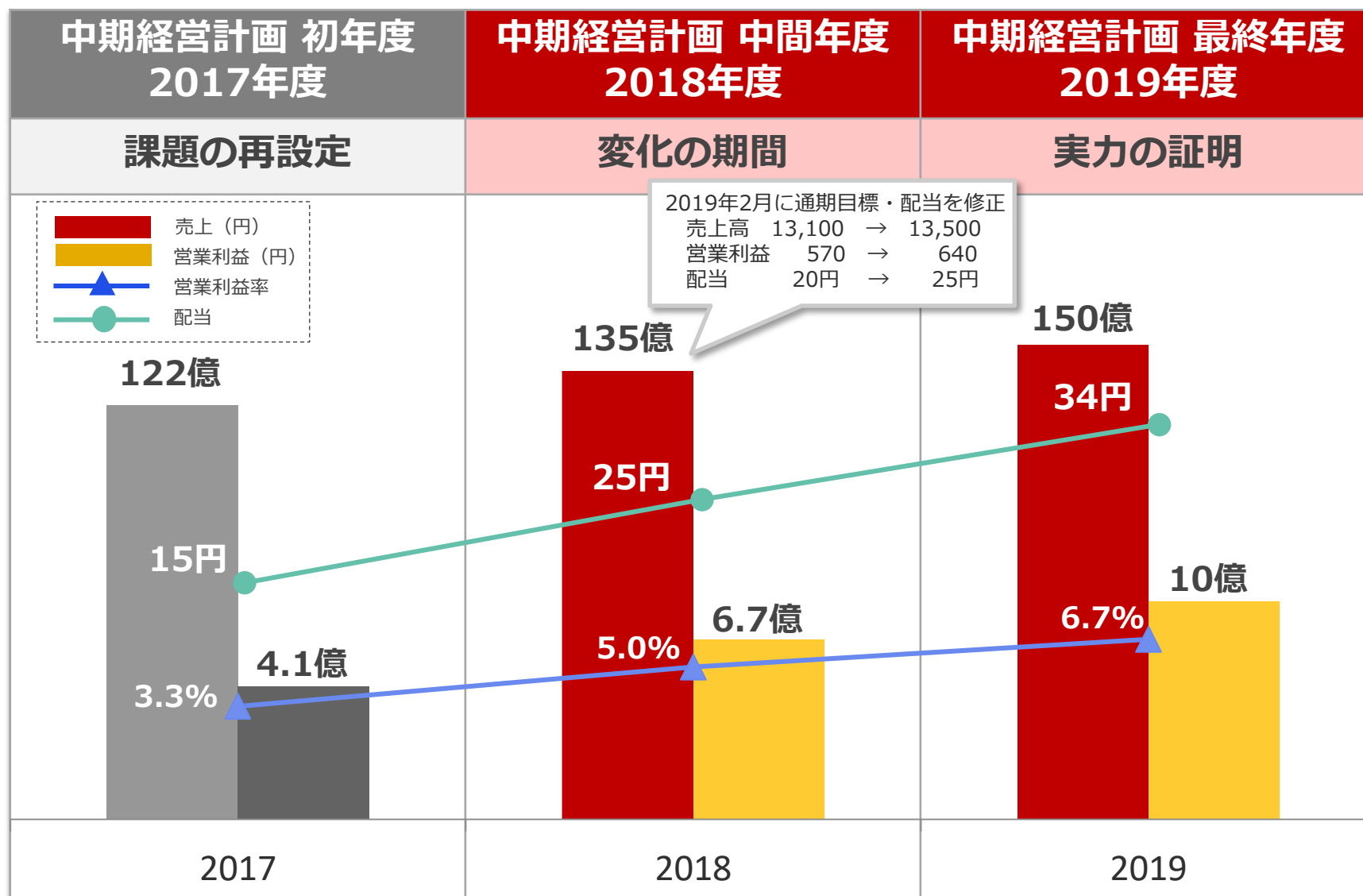
中期経営指標 2019年度

売上高	営業利益	経常利益	純利益	ROE
150億円	10億円	10.1億円	6.8億円	11.5%

中期経営計画 成長戦略

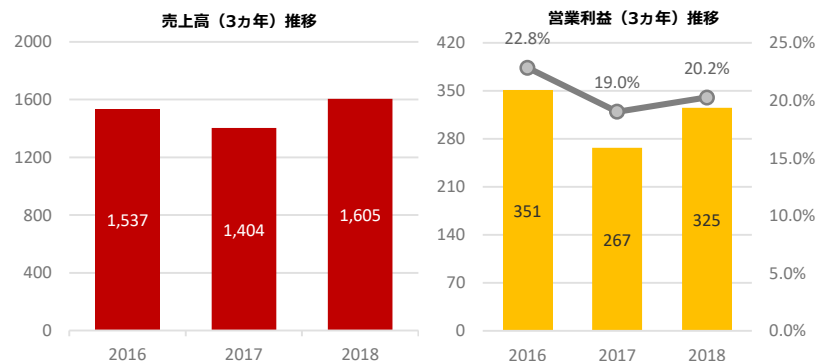


中期経営計画 目標・実績推移

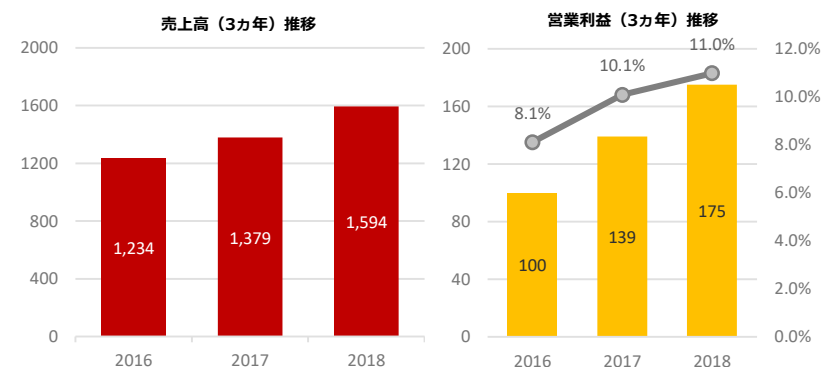


各事業の成長について

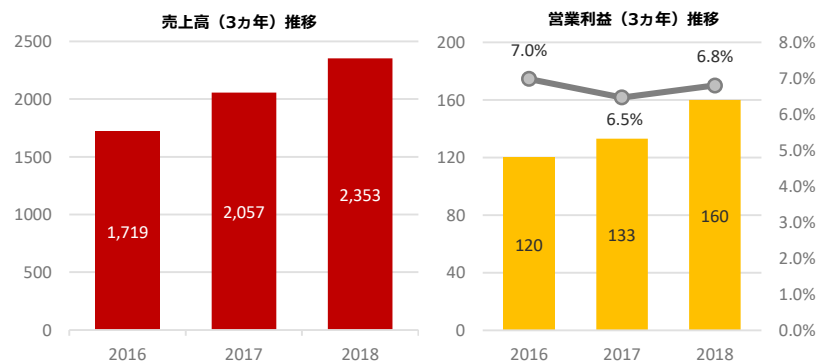
受託開発事業



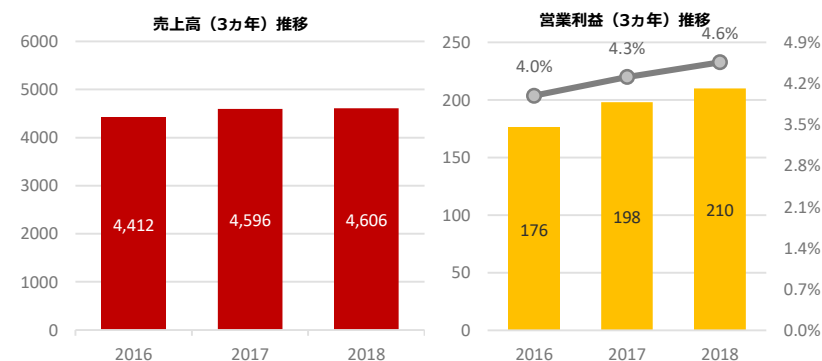
西日本事業



システム運用・サービス事業



サポートサービス事業

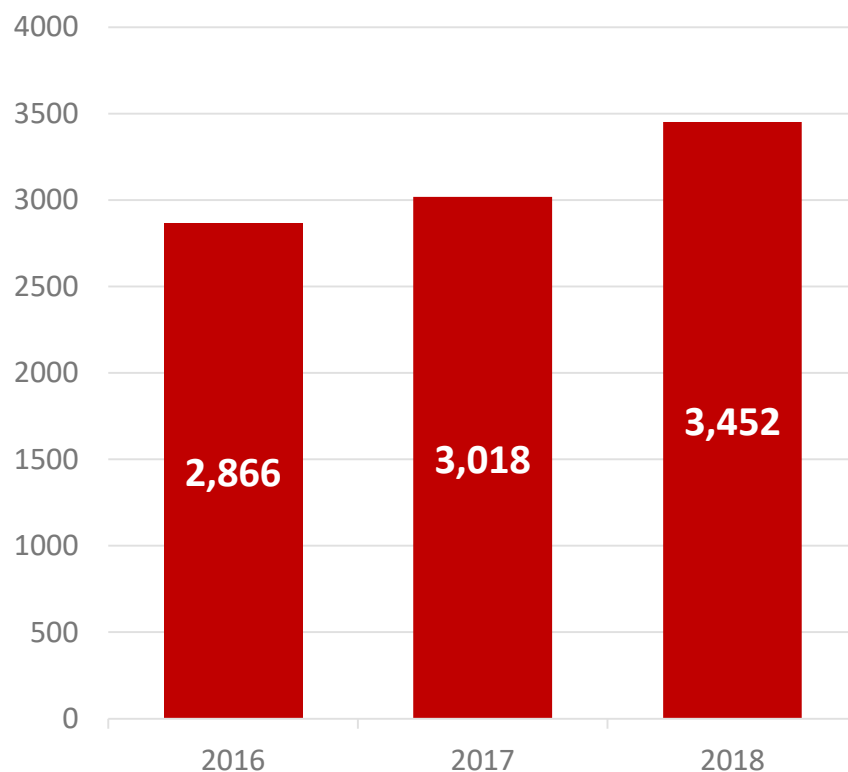


—●— 営業利益率

ソリューションサービス事業の成長について

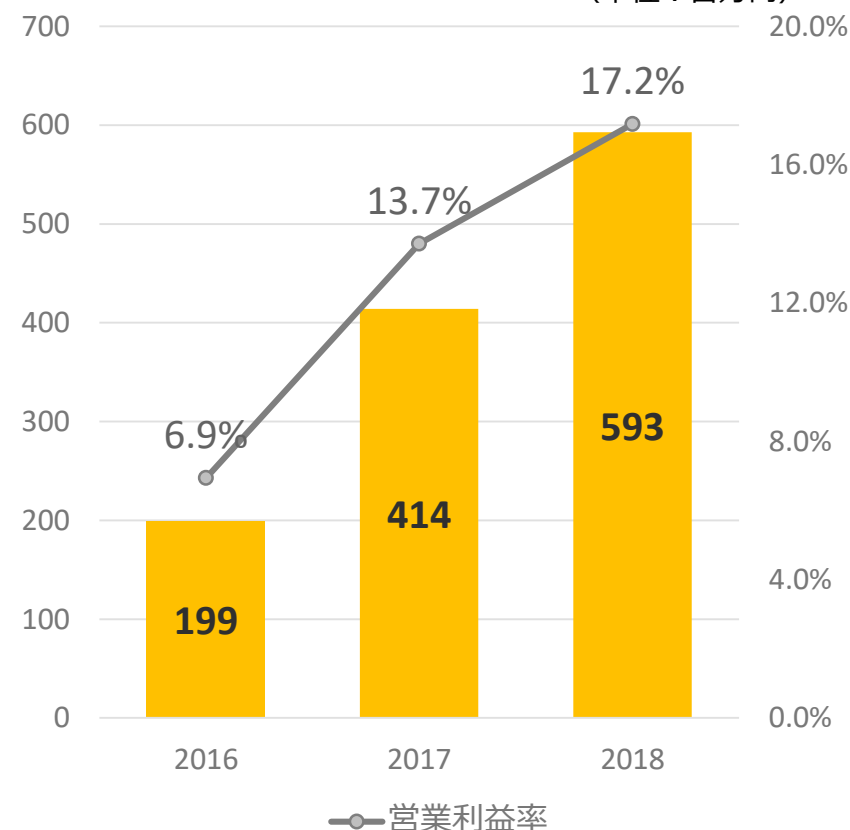
売上高（3カ年）推移

（単位：百万円）



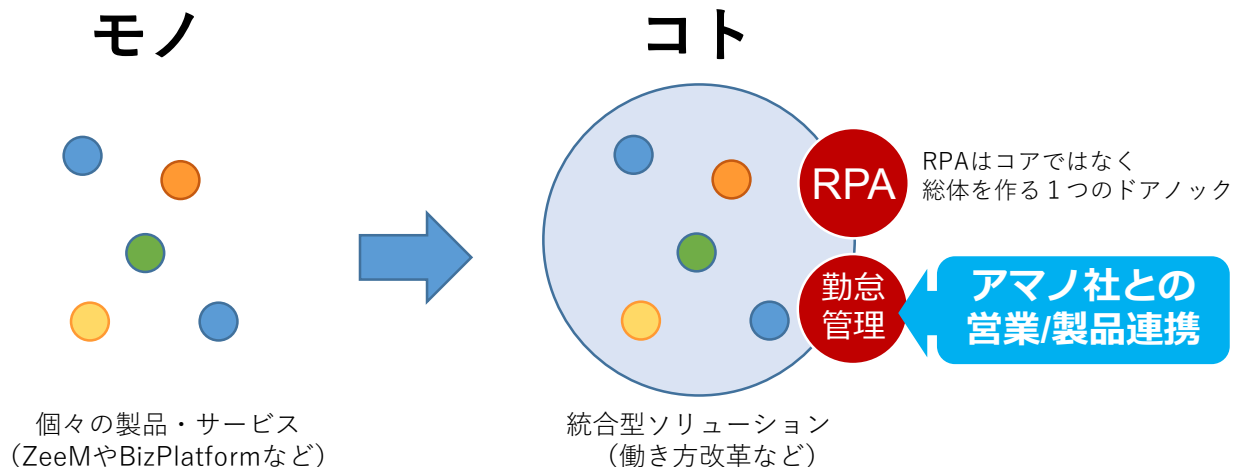
営業利益（3カ年）推移

（単位：百万円）



ソリューションサービス事業 利益創出の要因

案件の大型化



(百万円)

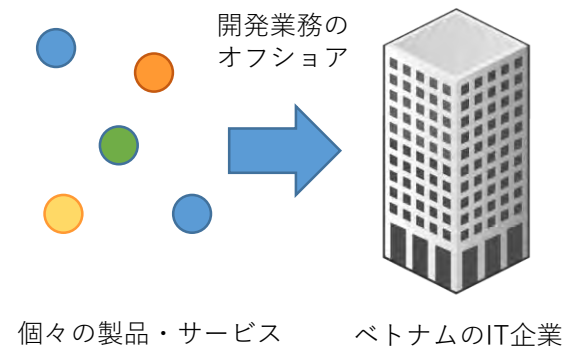
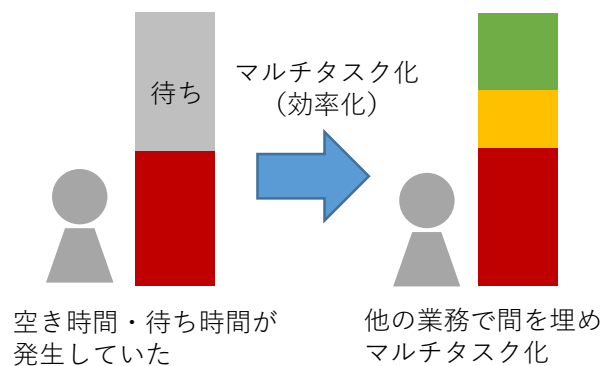
売上高 の変化

2016年度
2,866

20% UP!

2018年度
3,452

原価率低減



営業利益率 の変化

2016年度
6.9%

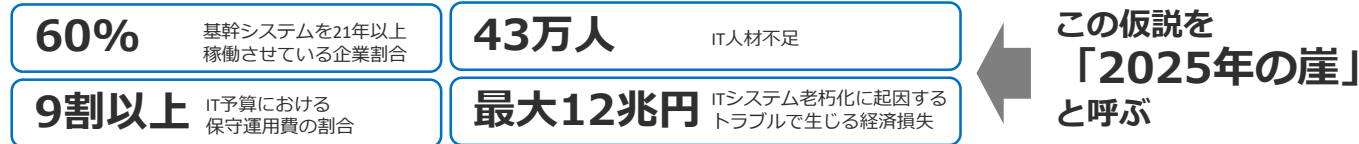
10.3p UP!

2018年度
17.2%

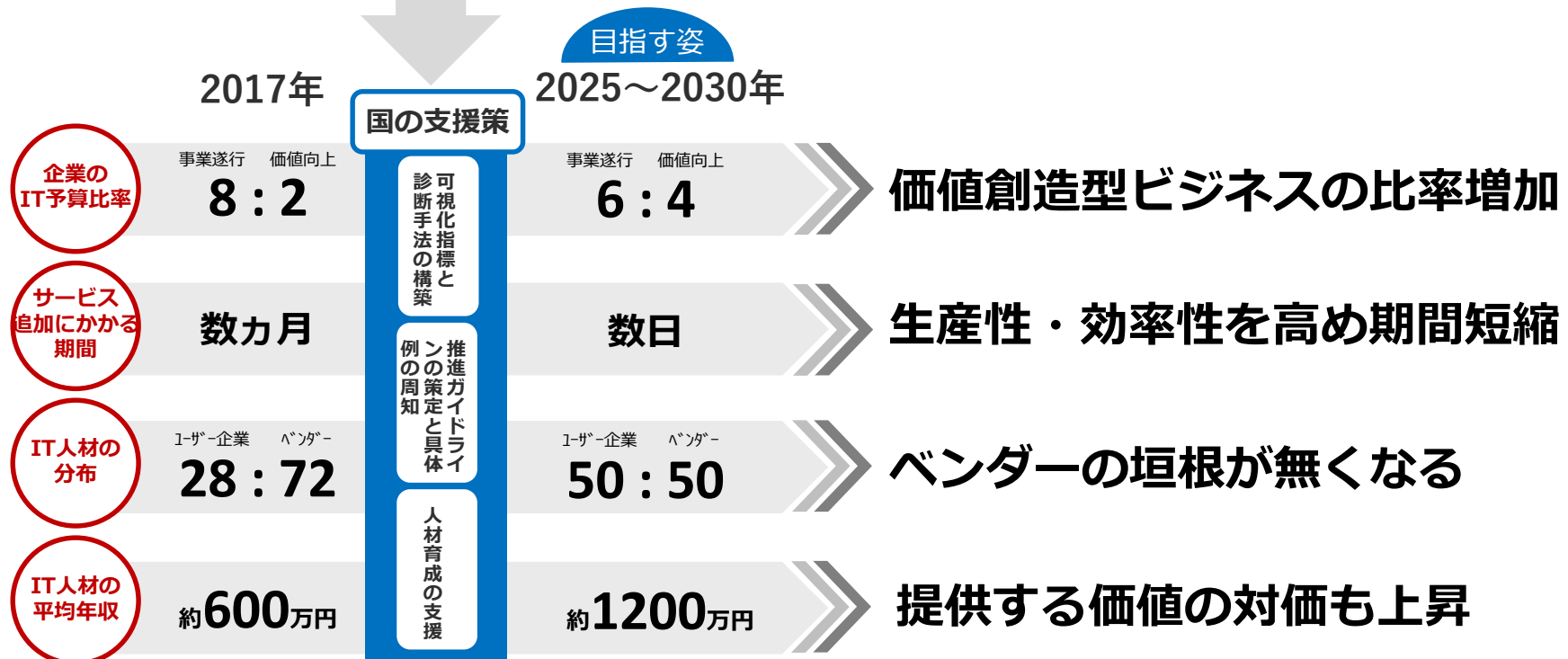
市場の変化・期待について

経済産業省の「DXレポート」から

- ブラックボックス化した基幹システムを使い続けると保守費用でIT予算が使いつぶされる
- 既存システムの維持に人財、費用が割かれデジタル化（DX）が一向に進まない



●（崖を上手に超え）DX実現で目指す将来シナリオ



市場の期待を超える企業・人財へ

市場の変化・期待

働き方改革

人手不足

2025年の崖

(古いシステム保守によるIT予算食潰し)

アジャイル開発

(顧客の状況に応じた柔軟な開発手法)

ボーダーレス

クレオの成長戦略

安定と成長のハイブリッド経営

安定

成長

既存の技術を使った
ITビジネス

CRM	メール/GW
ERP	ファイル
DB	BI
HR	Web

安定収益

開発要件に応える

確実性・安定性重視

課題解決型

新しい技術を使った
ITビジネス
(デジタルビジネス)



投資的

ビジネス成功に貢献

スピード・利便性重視

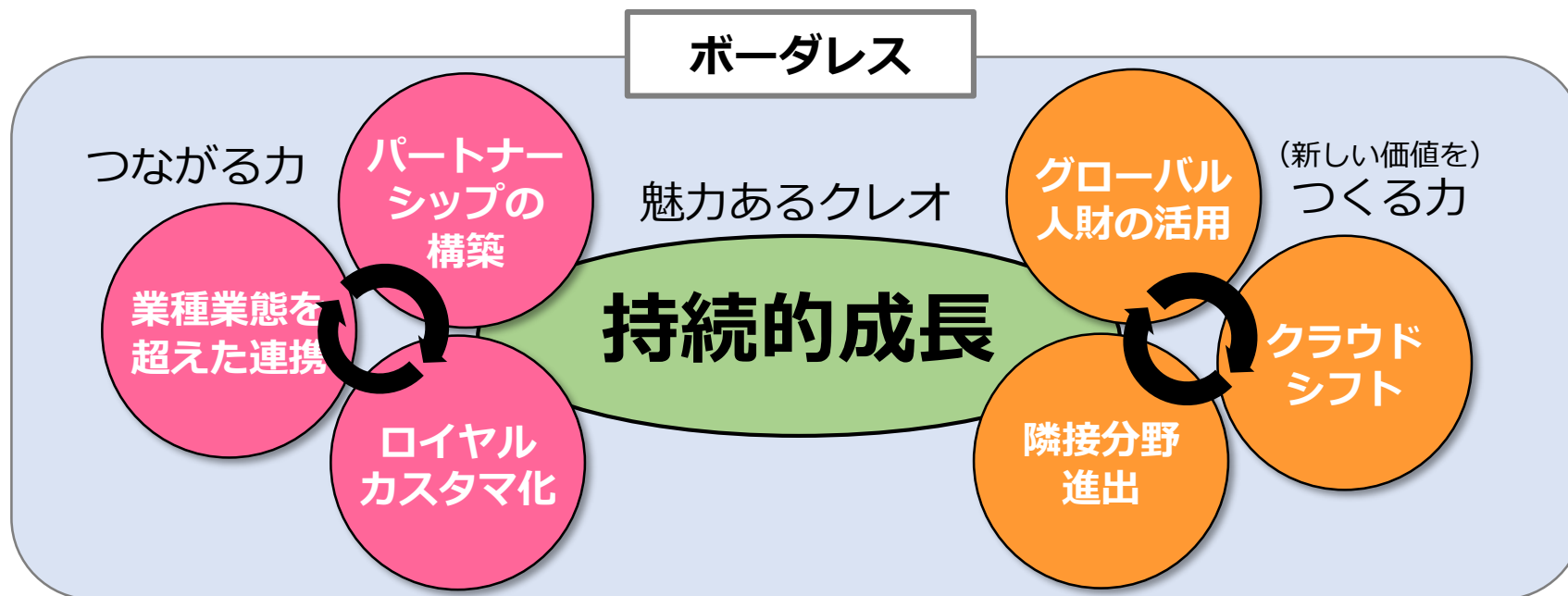
価値創造型

技術基盤

連携
移行

スキルチェンジ
人財再配置

持続的成長へ向けた取り組み



価値共創

- ・業種業態を超えた連携
- ・ボーダーレスな連携から新しい価値を見つける
- ・ユーザー含めたパートナーとの価値共創をビジネスに

人財投資

- ・採用活動強化（ホワイト500、インターンシップ、地方採用）
- ・システム開発手法の変化に対応（アジャイル開発、デザイン思考）
- ・価値創造を担う人財となるためのスキルセット転換（デジタルイノベーター）

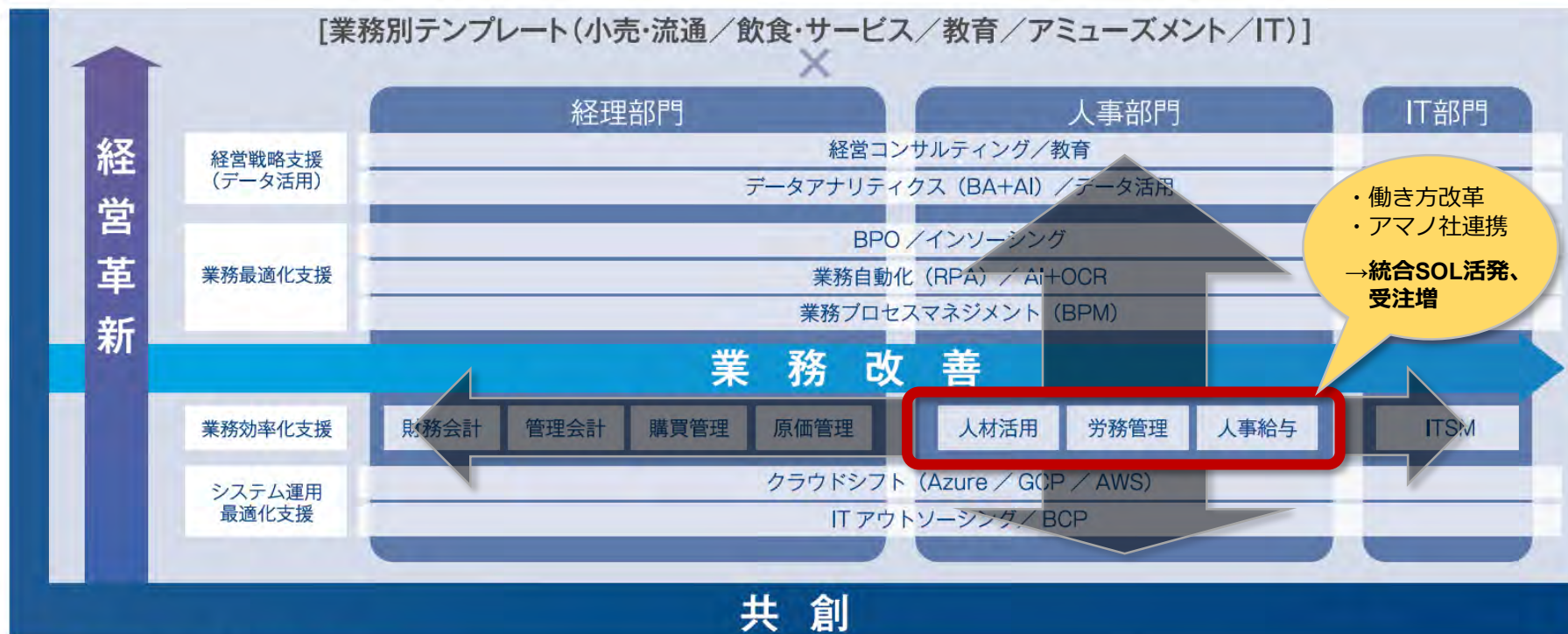
DXに向けた更なる成長戦略マップ

CREO Integration-Platform for DX

「革新」「改善」「共創」でデジタルトランスフォーメーションを推進する
企業価値創造プラットフォーム



[業務別テンプレート(小売・流通／飲食・サービス／教育／アミューズメント／IT)]



[DXを支援する3つの軸]



将来展望



- ・ 今次中期経営計画は今年度が最終年度、目標達成へ向け全社一丸
- ・ 次期中計は50周年以降の成長へ向けた土台作りとして次のステージを意識しつつ、2020年5月頃目途に策定予定

2020年3月期 連結通期計画（累計）

（単位：百万円、％）

		上期	前上期	増減率	通期	前通期	増減率
ソリューションサービス事業	売上高	1,776	1,491	19.1	4,061	3,452	17.6
	営業利益	225	183	22.8	770	593	29.7
受託開発事業	売上高	803	654	22.7	1,900	1,609	18.0
	営業利益	132	114	15.0	350	332	5.2
西日本事業	売上高	715	665	7.4	1,650	1,638	0.7
	営業利益	75	56	33.6	190	170	11.6
システム運用・サービス事業	売上高	1,231	1,169	5.3	2,687	2,355	14.1
	営業利益	70	78	▲11.3	210	160	30.9
サポートサービス事業	売上高	2,366	2,200	7.5	4,800	4,470	7.4
	営業利益	125	99	26.1	250	217	14.8
連結合計	売上高	6,750	6,181	9.2	15,000	1,3526	10.9
	営業利益	230	152	50.4	1,000	670	49.1

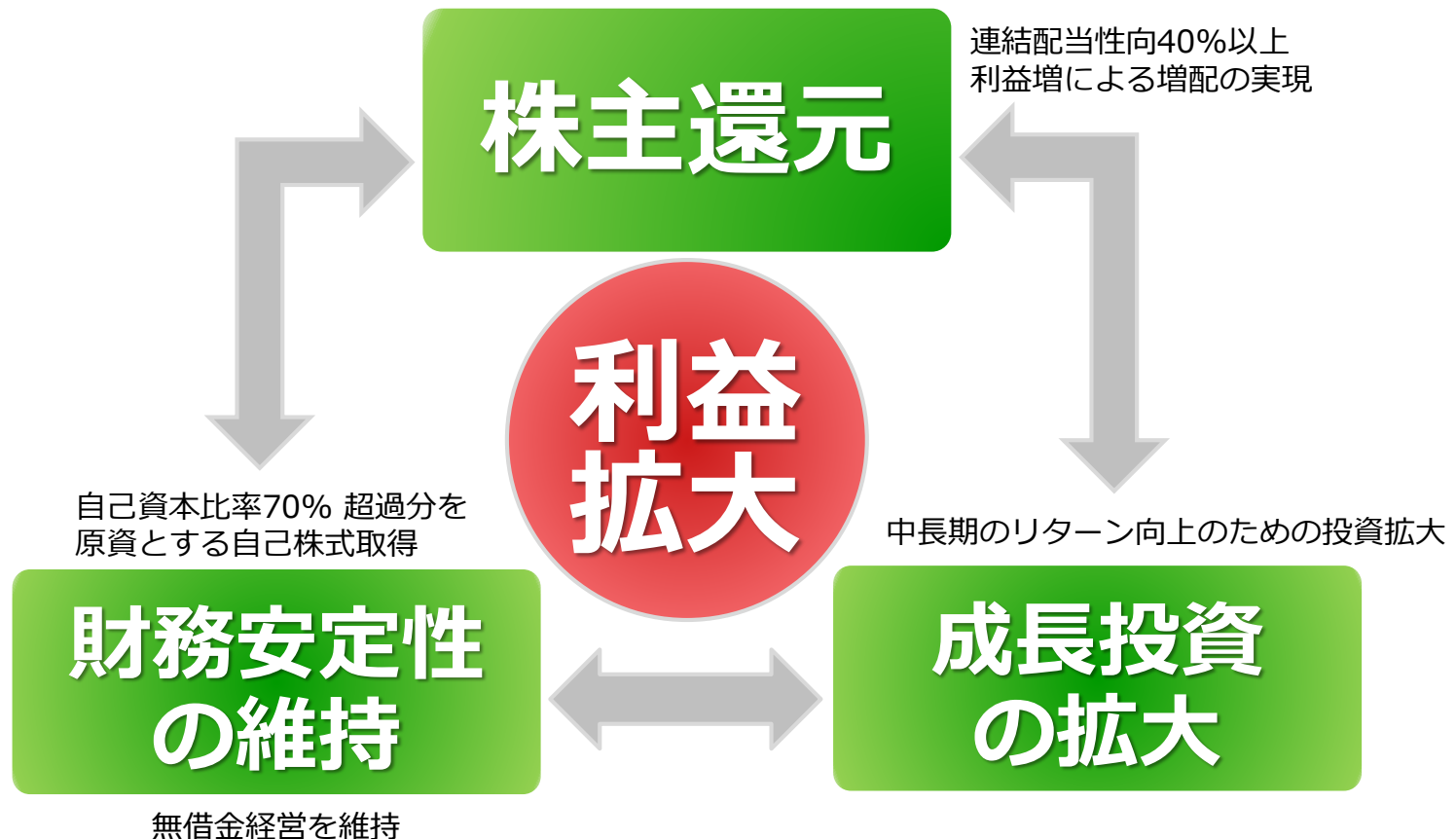
■ 目標達成の課題となる項目

- ・ IT人財の不足による機会損失
- ・ 案件大型化によるプロジェクトマネジメントの複雑化（トラブルPJの発生など）

配当について

資本政策と株主還元の基本方針

すべての基礎となる「利益拡大」により
企業価値向上のサイクルを加速させる



2020年3月期 配当金予想

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期 予想
年間配当金	15円	25円	34円
配当金総額	124百万円	207百万円	-
配当性向(連結)	40.8%	31.2%	40%
当期純利益(連結)	305百万円	664百万円	-

- 連結配当性向 40% 目標は維持。
但し、2019年3月期は繰延税金資産計上の影響により除く。

今後の投資家の皆様との対話スケジュール

- 2019年 5月10日 2018年度 決算発表
- 2019年 5月17日 2018年度 決算説明会
- 2019年 6月25日 株主総会
- 2019年 11月頃 個人投資家向け説明会

WEBサイトのご紹介

当社ホームページでは、詳細なIR情報や財務情報など、株主・投資家様向けの情報の掲載はもちろんのこと、メールによる「IRメール配信サービス」も行っております。是非一度ご覧ください。

<http://www.creo.co.jp/ir/>



その他のお問い合わせ

株式会社クレオ

広報IR担当

press-ir@creo.co.jp

TEL03-5783-3560

ご清聴ありがとうございました



株式会社クレオ

本資料に記載される見通し、今後の予測、戦略などに関する情報は、本資料作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲でなした判断に基づくものです。しかしながら、現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生等により、本資料記載の見通しとは異なる結果を生じるリスクを含んでおります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の見通しのみに全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控え下さるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であっても、本資料を無断で複写・複製、または転送などを行わないようにお願いします。

補足資料

セグメント別売上高：累計 (2020年3月期 予想)

(単位：百万円)

	1Q	2Q	3Q	4Q
ソリューションサービス事業	847	1,776	2,643	4,061
対前年比増減 (前年実績値)	23.9% (683)	19.1% (1,491)	18.7% (2,226)	17.6% (3,452)
受託開発事業	252	803	1,175	1,900
対前年比増減 (前年実績値)	▲1.4% (255)	22.7% (654)	19.9% (979)	18.9% (1,609)
西日本事業	295	715	1,156	1,650
対前年比増減 (前年実績値)	▲0.1% (295)	7.4% (665)	10.0% (1,050)	0.7% (1,638)
システム運用・サービス事業	603	1,231	1,979	2,687
対前年比増減 (前年実績値)	5.3% (572)	5.3% (1,169)	12.8% (1,754)	14.1% (2,355)
サポートサービス事業	1,157	2,366	3,580	4,800
対前年比増減 (前年実績値)	12.0% (1,032)	7.5% (2,200)	8.6% (3,297)	7.4% (4,470)
連結合計	3,089	6,750	10,327	15,000
対前年比増減 (前年実績値)	8.8% (2,839)	9.2% (6,181)	10.9% (9,309)	10.9% (13,526)

セグメント別営業利益：累計 (2020年3月期 予想)

(単位：百万円)

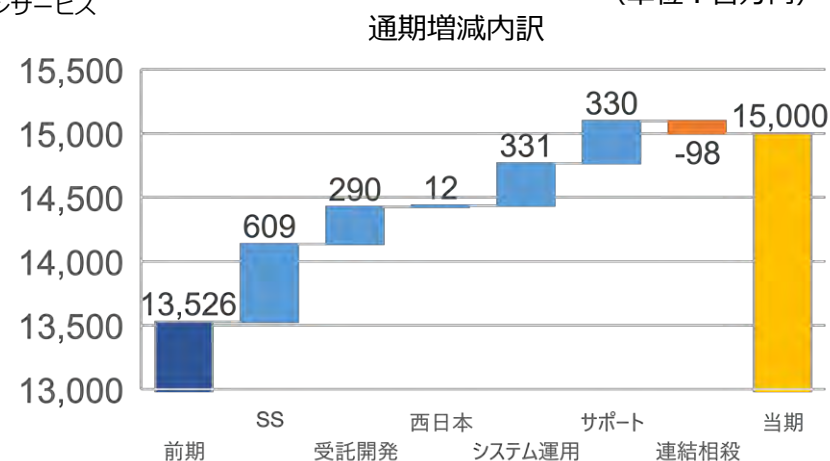
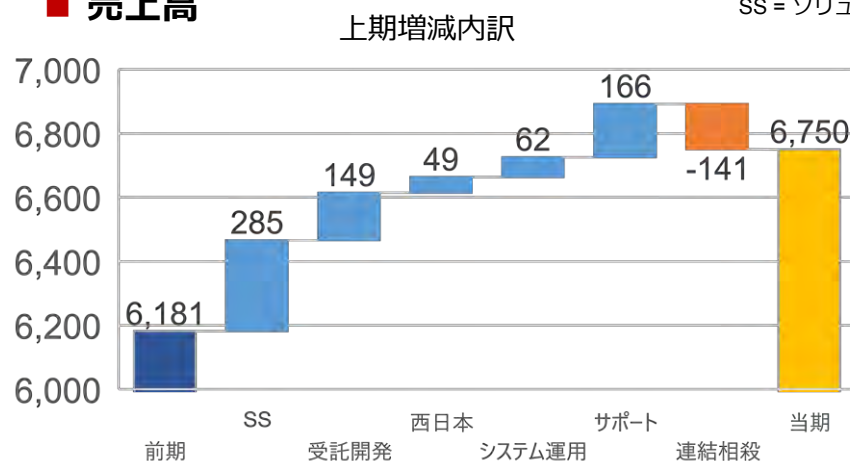
	1Q	2Q	3Q	4Q
ソリューションサービス事業	95	225	371	770
営業利益率	11.2%	14.0%	16.8%	28.1%
対前年比増減 (前年実績値)	9.0% (87)	22.8% (183)	15.3% (321)	29.7% (593)
受託開発事業	38	132	192	350
営業利益率	15.1%	17.1%	16.1%	21.8%
対前年比増減 (前年実績値)	11.8% (33)	15.0% (114)	6.3% (180)	5.2% (332)
西日本事業	30	75	145	190
営業利益率	10.2%	10.7%	15.9%	9.1%
対前年比増減 (前年実績値)	22.8% (24)	33.6% (56)	25.8% (115)	11.6% (170)
システム運用・サービス事業	20	70	130	210
営業利益率	3.3%	8.0%	8.0%	11.3%
対前年比増減 (前年実績値)	▲56.3% (45)	▲11.3% (78)	9.0% (119)	30.9% (160)
サポートサービス事業	46	125	187	250
営業利益率	4.0%	6.5%	5.1%	5.2%
対前年比増減 (前年実績値)	270.3% (12)	26.1% (99)	9.5% (170)	14.8% (217)
連結合計	20	230	445	1,000
営業利益率	0.6%	5.7%	6.0%	11.9%
対前年比増減 (前年実績値)	308.9% (4)	50.4% (152)	27.4% (349)	49.1% (670)

セグメント別増減要因 (2020年3月期 予想)

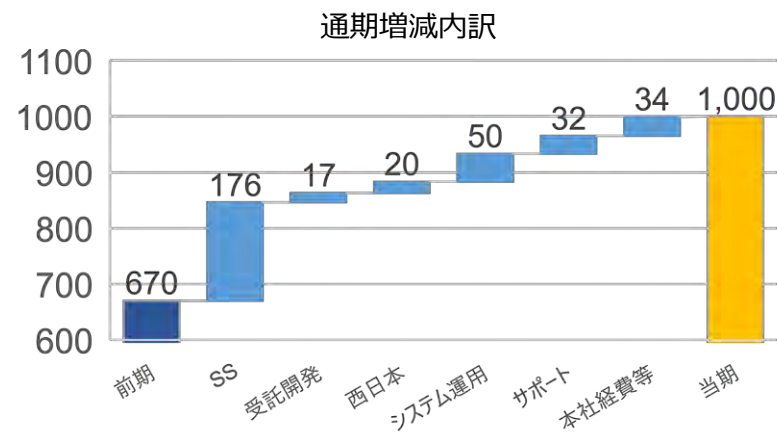
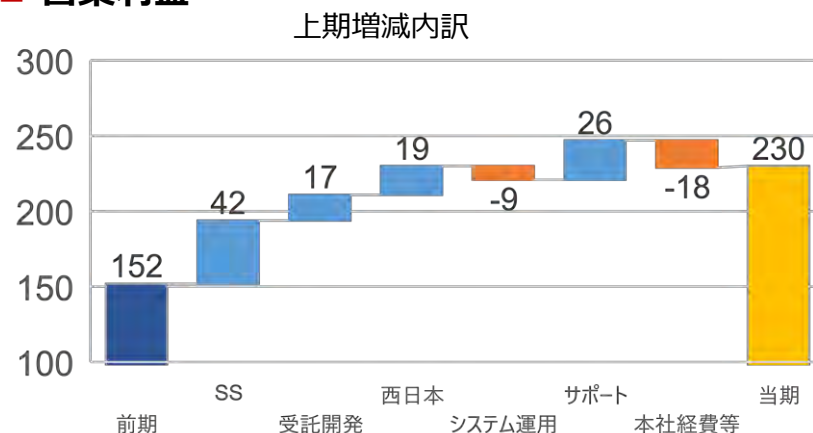
売上高

SS = ソリューションサービス

(単位: 百万円)



営業利益



通期増減要因

受託開発事業は前期失注から受注回復し増収増益。その他事業も通期で増収増益見通し。

本社経費増は、RPAなど新規事業のための研究開発投資、人材確保のための採用費増などによる。

会社概要

社 名	株式会社クレオ
本 社 所 在 地	〒150-0002 東京都品川区東品川4-10-27 住友不動産品川ビル12F
設 立	1974年3月22日
代 表 者	代表取締役社長 柿崎 淳一
資 本 金	3,149,650千円
従 業 員 数	連結：1,142名 単体：446名（2019年3月末現在）
事 業 内 容	情報処理システムの開発及びこれらに関するサービスの提供
上 場 市 場	JASDAQ 証券コード：9698

産業分類

- A 農業、林業
- B 漁業
- C 鉱業、採石業、砂利採取業
- D 建設業
- E 製造業
- F 電気・ガス・熱供給・水道業
- G 情報通信業**
- H 運輸業、郵便業
- I 卸売業、小売業
- J 金融業、保険業
- ・
- ・
- ・

通信業
(キャリア)

放送業
(テレビ・ラジオ)

**情報
サービス業**

**インターネット
付随サービス業**
(ポータル・コンテンツ)

映像・音声・文字情報制作業
(映画・レコード・新聞・出版)

市場規模
17.2兆円
(2015年 総務省調べ)

ソフトウェア業

- ・ 受託開発ソフトウェア業
- ・ パッケージソフトウェア業

**情報処理・提供
サービス業**

- ・ 市場調査・世論調査・社会調査業
- ・ その他の情報処理・提供サービス業

システムインテグレーターは、企業の成り立ちにより大きく4つに分類される。

外資系

国内メーカー系

国内ユーザー系

独立系

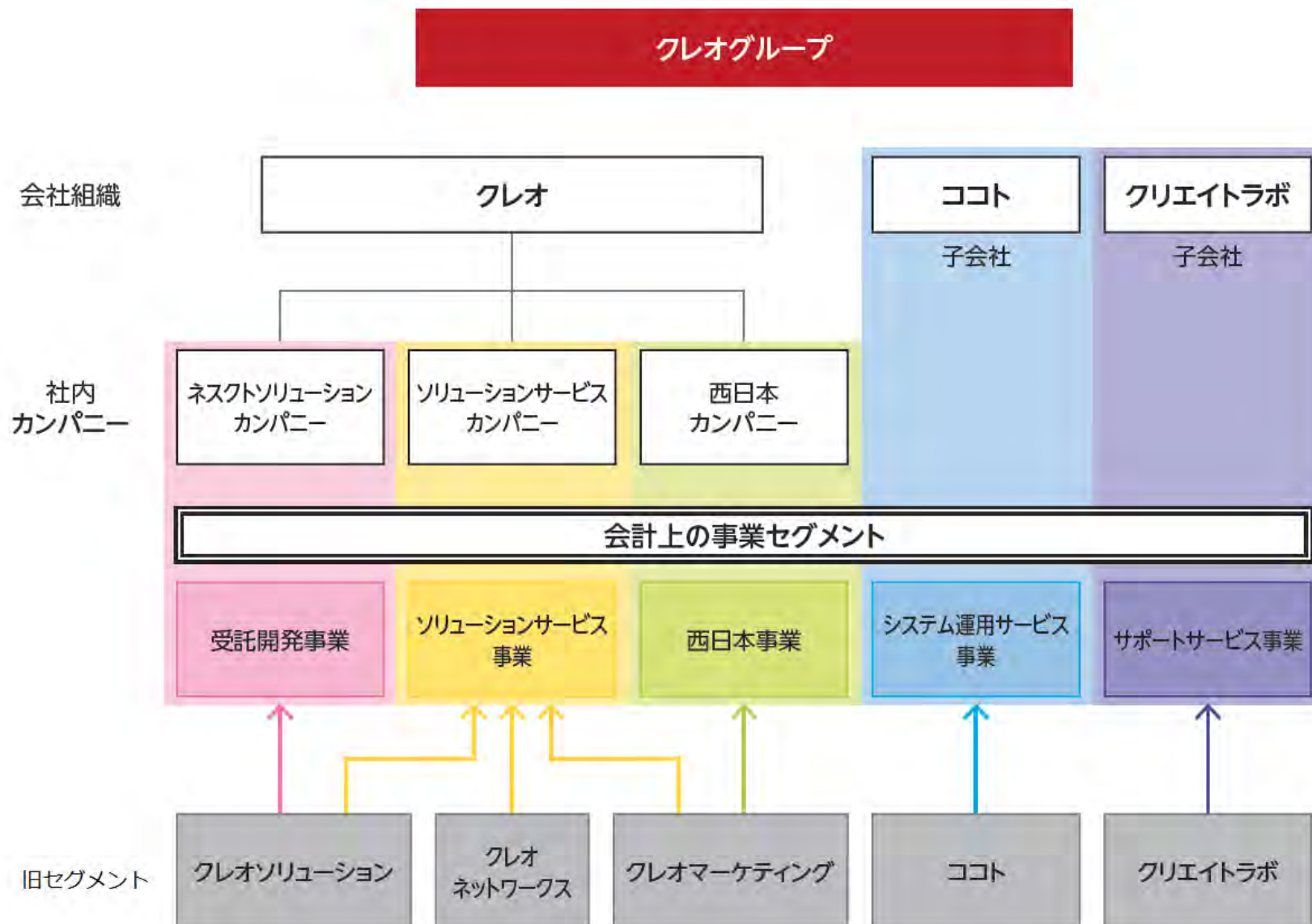
独立系は親会社はなくシステムインテグレーション事業を目的に、独自に設立された企業群。

メーカーやベンダーにとらわれず、クライアントに最適なソリューションを提供することができるのが強み。

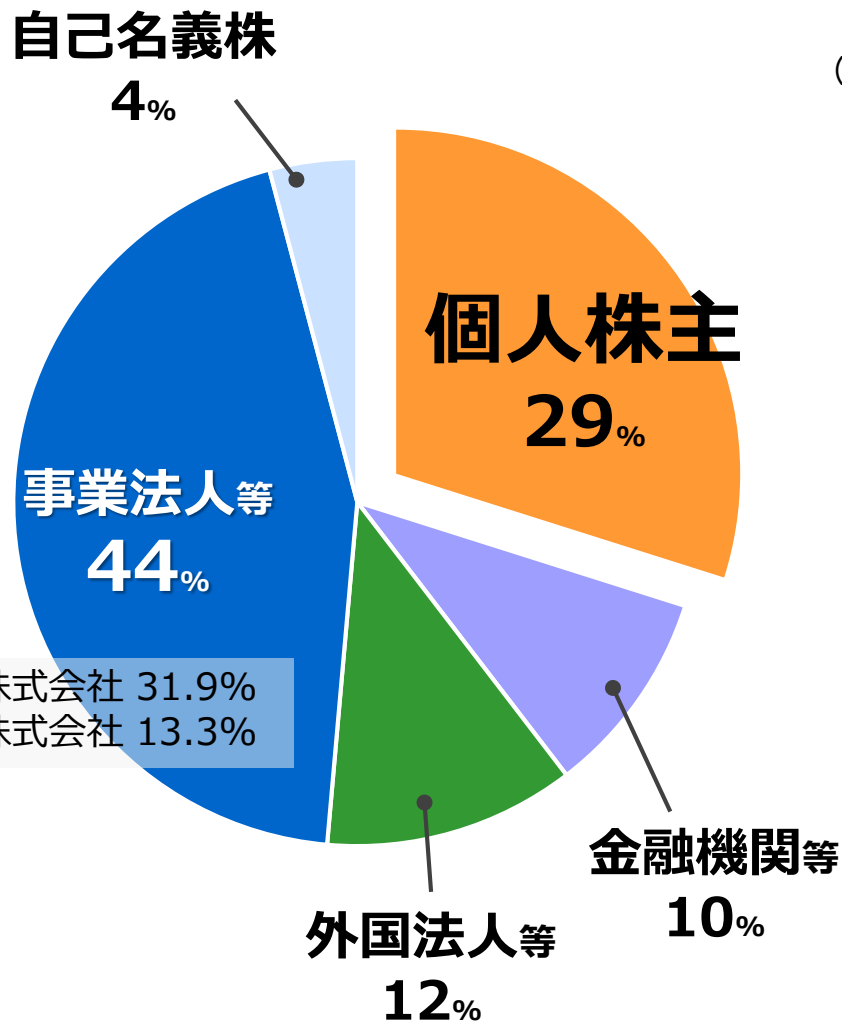


株式会社クレオ

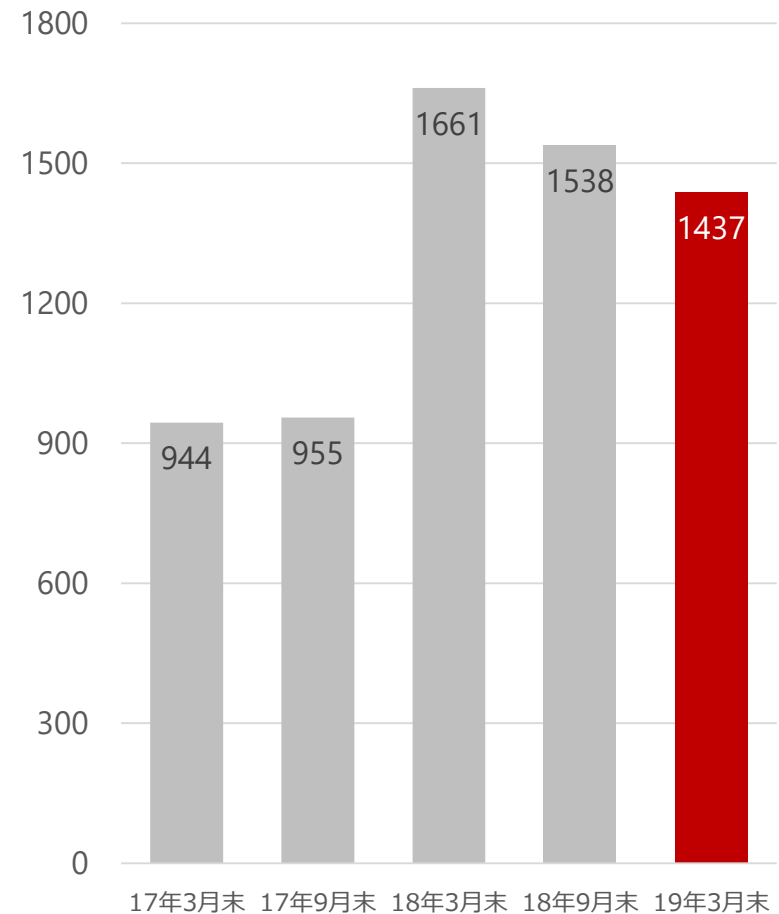
2017年度からの事業セグメント変更



株主構成



(単位：人) 個人株主数



※2019年 3月31日時点 自己株式を含む発行済み株式数に占める比率

コーポレート・ガバナンスの強化

「稼ぐ力」向上を担保する体制強化

コーポレートガバナンス・コード

JASDAQ 上場企業としての必須対応範囲を超えて、コーポレートガバナンス・コードの各原則・補助原則への対応(コンプライ)を順次進める

株主・投資家との対話のさらなる強化

- 経営方針、業績情報などの積極的な開示
- 株主・投資家との直接対話機会の拡大

企業価値向上への役員コミットメント

- 報酬体系の改定を実施し、業績連動型株式報酬制度を新たに導入

独立社外取締役の選任

- 独立役員の視点からの事業に対するアドバイザリー機能の強化